

2025（令和7）年度 事業報告書

社会福祉法人山鳩会

ひなたの道

就労継続支援B型事業所

1. 理念・方針

（1）法人理念

① 障がいがある人に…

自分の持っている力を発揮しながら、普通の生活を営み、自らが社会に価値のあるものである事に気づき、自己実現していけるよう支援する。

② 障がいがある人の家族に…

障がいがある人への思いを受け止め、それを実現していく。

③ 援助者には…

障がいがある人と共に歩みつつ、自己実現を図るために必要なサービスを提供し、常に向上的である人材に育てる。

④ 地域の方に…

共に生きていく環境を実現するために、お互いにメリットのある関わりを築いていく。

（2）基本方針

① 多様な障害の方のニーズに基づき、個々の年齢・特性に応じたメニューを提供する。

→理学療法士に相談し身体機能の低下が顕著な方にPTプログラムに基づく運動を提供した。個別に要望を聞き、年齢・障害特性に合わせた作業配置をし、本人の意欲を引き出した。

② 多機能型の特性を活かし、B型、生活介護共に、相互のプログラムの利用を促進する。

→生活介護の余暇の音楽活動にB型の利用者が参加した。B型の作業や余暇のダンスに生活介護の利用者が参加した。今後も多機能型として、相互のプログラムの活用を促進していく。

③ 地域の方と円滑な関係を築く為、日常的な地域清掃や定期的な交流行事を開催する。

→地域清掃にも取り組み、円滑な関係を築けた。施設祭では、地域に施設を開放し、地域との交流や理解促進に繋げた。地元で活躍する太鼓のボランティアにも出演して頂いた。

（3）中期目標（令和7年度～令和9年度）

① 安定的な送迎手段を確立し、法人内異動も含め自力通所が難しい利用者を獲得する。

→安定的な送迎手段の確立には至らなかった。法人内でひなたの道への異動はなかったが、3月に2名がひなたの道へ異動を検討し、1名が見学に来た。生活介護も含めて協議する。村山特別支援学校の車椅子利用の方が見学に来た。今後安定的な送迎手段の確立が望まれる。

② 高齢者や身体的に不自由な方のプログラムを充実させ、身体機能の維持向上を図る。

→作業が忙しくない日は、理学療法士の立てたプログラムに基づき運動の時間を設けた。歩行器を使われている方の側に付いて、施設内を歩き、身体機能の維持向上に努めた。

③ 高齢でも働きたい方や若年者へ作業種を安定的に供給し、やりがいの向上を図る。

→後期より白十字ホームのシーツ交換を他法人から引き継ぎ、指導を受け、軌道に乗せた。3月より新光の出向作業を法人内で分担して行った。法人内での作業の譲渡も含め、次年度以降も新規作業種の開拓を継続し、利用者の作業選択の幅を増やせるようにしていく。

2. 施設概要

- (1) 施設種別 指定障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）
(2) 利用定員 40名（現利用者数39名）
(3) 開所年月 平成28年10月1日
(4) 施設規模 敷地面積 982.38㎡
延床面積 996.24㎡
建物構造 鉄筋コンクリート造（地上3階建て）
賃貸区分（土地）賃借 （建物）法人所有

3. 職員構成

(1) 雇用契約あり

職 種	配置人数
管理者	1名※兼任
サービス管理責任者	1名
支援員（常勤職員）	5名
保育士（常勤職員）	0名
調理員（常勤職員）	0名
事務員（非常勤職員）	1名※兼務
支援員（非常勤職員）	7名
保育士（非常勤職員）	0名
調理員（非常勤職員）	0名
看護師（非常勤職員）	0名
理学療法士（非常勤職員）	1名※兼務
作業療法士（非常勤職員）	0名
合 計	16名

※管理者は、生活介護と兼任

※事務員（非常勤職員）は、法人本部と兼務

※理学療法士（非常勤職員）は、生活介護と兼務

(2) 嘱託

医師（4回／年）	1名
看護師（0回／年）	0名
理学療法士（1回／2月）	0名
作業療法士（0回／年）	0名
合 計	1名

4. 利用者状況

(1) 障害程度

	1	2	3	4	A	未定	合 計
愛の手帳	0名	14名	16名	8名	1名	0名	39名
身障手帳	5名	2名	0名	0名		0名	7名
精神保健手帳	0名						0名

※身障手帳、精神保健手帳と重複

(2) 年齢構成 (平均年齢 46.4歳)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合 計
男	2名	3名	8名	6名	6名	7名	32名
女	0名	2名	1名	0名	0名	4名	7名
合計	2名	5名	9名	6名	6名	11名	39名

最低年齢 男…19歳 女…22歳 最高年齢 男…78歳 女…75歳

平均年齢 男…50.0歳 女…45.6歳

(3) 担当福祉事務所

東村山市	練馬区	新宿区	国立市	所沢市	国分寺市	東大和市	合 計
33名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	39名

(4) 障害支援区分

区分	1	2	3	4	5	6	未定	合 計
人数	0名	4名	9名	7名	6名	0名	13名	39名

(5) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
退所者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
月末数	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468
延べ日数	858	897	858	897	819	858	897	858	897	897	780	897	10,413
延べ人数	770	802	811	822	740	786	820	765	839	817	711	839	9,522
出勤率(定員)	87.5	87.2	92.2	89.3	88.1	89.3	89.1	86.9	91.2	88.8	88.9	91.2	89.2
出勤率(現員)	89.7	89.4	94.5	91.6	90.4	91.6	91.4	89.2	93.5	91.1	91.2	93.5	91.4

5. 日課

(1) 月～金曜日

8：00～	送迎、登園
8：40～9：00	朝礼 ラジオ体操 ウォーキング
9：00～11：20	生産活動

11:30～12:30	昼食 昼休み
12:30～15:15	生産活動 係活動 余暇活動
15:15～15:20	清掃 終礼
15:30～	退園 送迎

(2) 土曜日

8:00～	送迎、登園
9:00～10:45	生産活動
11:00～	昼食
11:40～	退園 送迎

6. 重点目標

(1) 健康・衛生

- ① 加齢による運動機能低下の防止・軽減を図る為、理学療法士・嘱託医等の専門家の指示に基づき、個々の状況に適したプログラムを提供する。
→理学療法士の相談を毎月行い、日常的に取り組んだ運動の評価もして頂いた。次年度以降も高齢者の怪我の予防に取り組んでいく。
- ② 健康診断、体重測定を定期的に行い、利用者の健康状況を把握し、保護者とも情報を共有し、医療機関への情報提供等早期対応を図る。
→保護者とは健診結果を共有し、利用者本人へは体重の増減の伝達など意識付けを行った。
- ③ 自分の歯でいつまでも食べられるよう、必要に応じて、口腔衛生支援を行う。
→自身で歯磨きを行うのが難しい方や保護者から依頼のある方に対しては、直接介助を行った。
- ④ 高齢化対策についての職員の知識の向上を図りつつ、最新の情報を収集する。
→次年度も研修に参加する等知識の向上を図り、怪我の予防に繋がる情報を収集していく。
- ⑤ 日常的に利用者、職員の健康状態を把握し、感染症等が蔓延しないように努める。
→施設内で毎日検温を行い、食後のテーブル拭き等を徹底し、感染症予防に努めた。

健康診断	白十字病院	6/11
婦人科検診	白十字病院	10/7
インフルエンザ予防接種	白十字病院	11/20
歯科健診	ひなたの道（折笠 Dr）	2/5

(2) 家庭・地域生活

- ① 身だしなみを整えることに意識が向けられるように、衣類の買い物の機会を提供する。
→希望を聞いて、季節に合わせた服装選びとおしゃれを楽しむ機会を設けた。
- ② 社会生活を円滑に営む為のスキルを獲得し、生活に活かせる場面の提供を行う。
→グループ別外出やバスハイクで公共交通機関の使用法や食事マナーの習得機会を提供した。
- ③ 一人暮らしの高齢の利用者等には、必要な福祉サービスに繋げる等個別ニーズに対応する。
→高齢の利用者で足腰が不自由になり、杖等安価にレンタル出来るように介護認定を申請した。

(3) 作業・就労活動

- ①参加作業は可能な限り個々の要望に応じた場面提供を行う。

→利用者から要望がある場合は、出来る限り希望に沿った作業種に配置した。

②新規作業種の開拓を進め、既存作業種を見直し、利用者の意欲を引き出ししていく。

→白十字ホームのシーツ交換を後期から始め、積極的に参加する利用者も見られた。

③生活介護の利用者で就労継続支援B型の作業を希望する方には提供し、支援する。

→生活介護の利用者2名が、午後の作業に参加し、必要に応じて支援した。

稼働作業種目

(単位:円)

	受注・納品先	作業内容	稼働日	参加者	令和6年度収入	令和7年度収入
受託事業	鈴木紙工 プロメディア 平成の里	ショッピングバッグ制作 ダイレクトメール封入	週5日	全員	1,122,594	1,455,992
清掃事業	白十字ホーム 緑道清掃	水やり、シーツ交換 ゴミ拾い	月数回 月1回	3名 3名	277,056 (全生園含む)	732,055
回収事業	三栄サービス	古紙等回収	週5日	10名	3,572,378	3,572,318
自主事業		芋けんぴ作成	適宜	3名	126,510	0
その他		施設祭バザー売上	施設祭	数名	6,165	9,300
小計					5,104,703	5,769,665

工賃支払実績

(単位:円)

	総額	平均額	最高額	最低額
4月	448,208	12,806	26,388	610
5月	283,740	8,130	19,560	430
6月	225,130	6,101	15,390	150
賞与	349,240	9,465	10,130	3,720
7月	272,570	7,614	18,170	340
8月	301,510	8,541	20,210	330
9月	241,460	6,745	16,020	200
10月	259,320	7,264	17,090	190
11月	256,240	7,363	16,470	200
12月	368,350	10,092	24,870	490
賞与	307,230	8,417	8,490	2,240
1月	414,410	11,641	26,700	610
2月	247,910	6,964	15,990	400
3月	359,780	9,857	22,660	710
合計	4,335,098	121,000	258,138	10,620
平均	361,258	10,083	21,511	885

(4) 給食

①利用者の健康状態に基づき、可能な限り個別の希望に応じた献立を提供する。

→毎週火曜日の選択メニューと月1回利用者の意見を反映したリクエストメニューを提供した。

②栄養基準量(一人当たりの栄養基準量)

	熱量	蛋白質	炭水化物	脂質	カルシウム	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC
計画	720kcal	28g	111.5g	18g	320mg	0.4mg	0.48mg	40mg
実績	695Kcal	27.6g	104.9g	19.1g	114mg	0.4mg	0.68mg	48mg

(5) 自治会活動

- ①利用者自身が主体となれるように、議題の提示方法や情報提供の仕方を工夫する。
→利用者に司会を任せ、リクエストメニュー等の質問はマイクを回し、発言の機会を設けた。
- ②ホワイトボードへの掲示、グループ毎の話し合い等で利用者のニーズを引き出す。
→ホワイトボードへ利用者の意見を集約し、分かり易く提示した。全体から挙手等で意見を聞く場面とグループ毎に職員が補佐しながら聞き取る機会を組み合わせることでニーズを引き出した。
- ③利用者の意見が最大限活かせるよう職員間で協議し、行事等の施設運営に反映させる。
→自治会の意見を元に、職員会議で諮り、決定事項を次回提示し、施設運営に反映できた。

(6) 行事实績

①年間行事

月	内容	場所	目的	参加数
7月	防災体験	立川防災館	煙体験、消火訓練、防災シアター	43名
8月	ひなたフェス	ひなたの道	地域の方を招き、交流や施設の理解を深める。	124名
11月	大運動会	八坂小学校	法人全体で集い、様々な種目を通して運動する。	63名
11月	サーカス観覧	立飛特設会場	サーカスを見て、非日常を体験する。	24名
12月	クリスマス会	ひなたの道	利用者(B型と生活介護)と職員の交流を図る。	111名
1月	成人を祝う会	中央公民館	成人等人生の節目を迎えられた方を全体で祝う。	45名
1月	サーカス観覧	立飛特設会場	サーカスの第2弾。	11名
3月	バスハイク	横浜方面	年度末に一年の労を労い、保護者利用者と交流。	55名
3月	買い物学習	ユニクロ	春服を購入し、身だしなみを整える。	29名

②グループ別外出・全体外出

月	場所	内容	参加数
5月	よみうりランド	各種アトラクションに乗り、非日常を体験する。	11名
6月	マクセルアクアパーク品川	水族館で動物やショーを観て楽しむ。	16名
9月	コカ・コーラ工場・深大寺	コカ・コーラの工場見学と境内を散策する。	8名
10月	小松沢レジャー農園	バーベキューとぶどう狩りを楽しむ。	46名
2月	カラオケまねきねこ	カラオケボックスでカラオケを楽しむ。	3名
3月	ららぽーと・エミテラス	ドラえものの映画を観て、楽しむ。	12名

(7) 余暇活動

①継続的なプログラム

→半年に1度利用者に希望を聞き取り、グループ分けし、月に1、2回実施した。

活動種目	人数	活動内容
プール	7名	プールで個々にあった運動をして、体力維持・精神安定を図る。
運動	7名	ウォーキングや軽体操をし、体力・身体機能の維持を図る。
カラオケ	13名	歌いたい曲を自分で選び歌うことでリフレッシュする。

ダンス	9名	皆が好きそうな曲や出来そうなダンスをし、発表の場を設ける。
ボッチャ	8名	グループを作り、協力しながらゲームを楽しむ。後期から廃止。
ボウリング	14名	ボウリングをして、体力維持・向上、精神安定を図る。
創作活動	1名	絵手紙の作成等工作を通して、精神安定を図る。後期から廃止。
音楽活動	3名	生活介護のプログラムに沿って、歌ったり、合奏したりした。

②月替わりのプログラム

- ・上記の8種目以外に、全員参加のレクリエーション活動(月1回)と園芸(適宜)を実施する。
→毎月1回レクリエーションの機会を持てた。季節毎の花や適宜野菜の苗を植えて育てた。

(8) 美化活動

- ① 利用者の転倒や怪我につながらないように日常的に安全な事業所の環境を提供する。
→環境に起因した施設内での転倒事故は見られなかったが、次年度も継続していく。
- ② 敷地内外の清掃、除草等を積極的に行い、衛生的な環境を維持する。
→施設近辺の地域清掃の機会を定期的に設け、施設内や駐車場の除草も取り組んだ。

7. 防災訓練

- (1) 災害時の利用者の安全を図るため、防災計画に基づき月1回の防災訓練を行い、年2回全館合同の防災訓練を実施する。
→毎月生活介護と合同で、火災や地震の避難訓練を実施した。また、法人内の合同避難訓練として、自衛消防組織に基づいた避難訓練を実施した。
- (2) 大規模災害時の福祉避難所として、市、関係機関などと協力し機能を果たせる準備を整える。
→福祉避難所について、BCP委員長とも情報の収集に当たった。次年度も連携を図っていく。

8. 地域との交流

- (1) 挨拶、清掃活動等積極的に行い、日常的な関係を充実させる。
→定期的に地域清掃を行い、日常的に良好な関係を築けた。
- (2) 施設祭、ボランティアの受け入れ、地域イベント、近隣学校との交流等啓発活動を行う。
→施設祭、廻田町自治会清掃等で地域の方と交流が持て、啓発できた。

9. 実習生の受け入れ

- (1) 特別支援学校や中途の方の実習を受け入れ、体験の場とし、利用者獲得の機会とする。
→利用者の獲得には至らなかったが、中途の方の見学等があったので、実習に繋げていく。
- (2) 大学、専門学校等から実習を受け入れ、福祉職員の養成の一端を担うと共に、人材確保の機会とする。
→福祉職員の養成の一端は担えたが、人材確保には至らなかった。

対象	期間	人数
特別支援学校2年生	2日間	1名
特別支援学校1年生	1日間	4名
社会福祉士実習	4日間	1名
社会福祉士実習	2日間	2名
東村山市第七中学校2年生	2日間	2名

10. 保護者会との連携

- (1) 支援の充実を図るため、家族の方との情報交換を密に行う。
→連絡ノートの活用やお迎えに来る保護者、保護者会の際に情報交換を行った。
- (2) 事業所の活動への理解を深めるため、月1回の保護者会を行う。
→全体行事や面談期間以外は実施し、活動の理解を深めた。毎回報告書を全員に配布した。
- (3) 行事や地域交流の報告、年度替わりの挨拶等を適宜情報誌にて発信する。
→行事後や年度初めに職員紹介(写真と名前入り)の施設便りを発行し、報告や情報を発信した。
- (4) 家族が参加できる行事を行い、交流の場を設ける。
→施設祭、バスハイク、運動会や成人を祝う会等で交流を持てた。

11. 職員研修

- (1) 新たな気づきを得る為、他施設の見学や交流を行い、新たな視点を取り入れる。
→所沢市にある多機能型施設「皆成会」に就労継続支援B型の主任4名で見学に行き、新たな知見を得て、主任同士で理解を深めた。
- (2) 専門的な知識や最新情報を得る為、積極的に研修に参加し、利用者支援に活かす。

研修名	実施日	主催	実施場所	参加者
虐待防止・権利擁護研修	6/26	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	佐久間容子
雇用主研修会	6/30	ハローワーク立川	八王子市民会館	徳田文雄
高齢知的障害者への支援	7/10	知的発達障害部会	ひなたの道	守久裕美
労働基準法等に関する研修	8/1	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	徳田文雄
財務マネジメント初級研修	8/14	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	徳田文雄
障害者雇用サポーター研修	8/20	東京リーガルマインド	ひなたの道	徳田文雄
SNSを利用した広報力向上	8/25	ソフェルクラブ	ひなたの道	小林祐貴
チームリーダー研修	9/3、4	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	松井天平
人事管理研修	9/4	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	徳田文雄
メンタルヘルス講習会	9/22	ソウェルクラブ	ひなたの道	松井天平
財務マネジメント中級研修	11/5	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	徳田文雄
苦情解決担当者研修	12/24	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	大竹正史
高齢知的障害者の認知症	2/25	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	江川美樹
虐待防止・権利擁護研修	2/26	東京都社会福祉協議会	ひなたの道	大塚美奈子
人から広がるノロウイルス	2/27	町田予防衛生研究所	ひなたの道	守久裕美

* 会場がひなたの道は全てウェブ開催

12. 会議

職員会議	月1回第1火曜日に実施し、施設運営や行事全般を検討。
ひなたの道合同職員会議	月1回第4火曜日に実施し、施設全般の運営や合同行事を検討。
評価会議	年2回実施(10月と3月)し、アセスメントを見直した。
個別支援会議	年2回実施(8月と2月)し、個別支援計画立案に繋げた。
ケース会議	月1ケースで第3火曜に実施し、支援方法を見直した。

給食会議	月1回第3水曜日に実施し、委託業者と給食提供を検討。
研修報告会	研修終了後に報告した

13. BCP（事業継続計画）対策

（1）防災

計画に沿った形で法人全体での訓練の実施、研修の実施を行う。また定期的に会議を開催し、より実効性の高い防災対策を検討する。

→BCP委員会を定期的に開催し、法人全体の訓練として、地震から火災になった想定で、自衛消防組織に沿った訓練を実施した。防災安否確認システム（オクレンジャー）の導入に向けて、説明会・模擬などを実施した。

（2）感染症

計画に基づき、連絡調整や対応手段を整理し、感染症発生時にも円滑に事業の継続または再開をするための体制作りをする。

→感染症委員会を定期的に開催し、感染症発生時にも円滑な事業継続ができる体制作りを話し合った。

14. 苦情解決、個人情報保護、権利擁護、虐待防止、身体拘束の適正化、セクシャルハラスメント防止

（1）苦情解決

①利用者からの苦情解決実施要綱に基づき、苦情に対しては真摯に受け止め迅速且つ円滑な解決方法を見出せるよう努める。

②担当窓口及び第三者委員を提示し、苦情解決への仕組みを利用者・家族へ周知する。
→苦情解決については、担当職員を設け、また第三者委員を提示し対応に当たった。

（2）個人情報保護

個人情報保護規定に基づき、個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、データの管理を適切且つ安全に行う。

→個人情報保護については、保護者へアンケートを実施し、取り扱いには留意した。

（3）権利擁護・虐待防止・身体拘束の適正化

①虐待防止等に関する運営委員会、担当職員を配置し、必要な支援体制の整備を行う。

②身体拘束の対策を検討する委員会を定期的に開催する。

③職員は、虐待防止の啓発・普及、身体拘束の適正化に関する研修を受講する。

→虐待防止委員会を定期的に開催し、虐待に繋がらないように支援に当たった。

（4）セクシャルハラスメント防止

担当職員を配置し、セクシャルハラスメントの防止、対応にあたる。

→セクシャルハラスメントについては、男女各1名の担当者を設け対応に当たった。

苦情解決

	氏名	連絡先
責任者	徳田 文雄	042-394-3731
担当者	松井 天平	同上
第三者委員	端山 幸子	同上

セクシャルハラスメント

	氏名	連絡先
責任者	徳田 文雄	0 4 2 - 3 9 4 - 3 7 3 1
担当者（男性）	小林 祐貴	同上
担当者（女性）	前森 直美	同上

虐待防止・身体拘束の適正化

	氏名	連絡先
責任者	徳田 文雄	0 4 2 - 3 9 4 - 3 7 3 1
担当者	守久 裕美	同上